

氏名	川崎 善徳
学位の種類	博士（事業構想学）
学位記番号	第27号
学位授与年月日	平成31年3月19日
学位授与の条件	学位規程第3条第3項該当
学位論文題目	中国山東省済南市におけるリハビリテーション分野の支援に関する研究 -地域リハビリテーションの概念を用いた家族介護者への包括的支援の必要性-
論文審査委員	主査 富樫 敦 副査 須栗 裕樹, 関田 康慶, 糟谷 昌志

論文の要旨

独立行政法人国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency, 以下, JICA) は, 中国のリハビリテーション (以下, リハビリ) 分野の支援として, 無償資金協力, および技術協力を行ってきた. その技術協力プロジェクトの中で, 中国の医療機関からの支援要請を受けて, JICA ボランティア事業の青年海外協力隊として, 日本のリハビリの専門家が派遣された.

JICA は, 中国に対してリハビリ分野の支援を 1981 年から 2015 年まで行った. 2015 年に JICA による支援は中断し, 現在に至っている.

近年の中国では, 高齢化が進んでおり, それに伴って入院患者も増加することが予測される. 中国では, 入院患者の介護を家族が行っており (以下, 家族介護者), そのようなケースも増加することが予想される. しかしながら, 日本で行われているように, リハビリ分野の専門家の指導の下で, 家族介護者が適切な動作で介護をすることができるための適切な指導はあまり行われていなかった.

本研究の目的の 1 つは, JICA ボランティア事業の青年海外協力隊による中国山東省済南市 (以下, 済南市) のリハビリ専門家による介護指導の支援が, 入院患者における家族介護者の介護負担に与える影響を明らかにすることである. 2 つ目の目的は, 済南市におけるリハビリの専門家による支援が終了した後の, 家族介護者の介護負担の現状を明らかにすることである.

第 1 章では, 緒言として, 本研究の目的, 本研究が行われた背景, 先行研究からみた本研究の位置づけ, 研究の動機などを整理している. 第 2 章では, これまで我が国が, JICA を通じて行ってきた中国へのリハビリ分野の支援について, 先行研究, および, 資料にもとづいて述べている. 第 3 章では, JICA における中国へのリハビリ分野の支援が終了した後の現状について, 「国家医療保健サービスシステム計画概要」, リハビリ分野の医療体制整備, および, 家族介護者の介護動作指導の必要性について, 主に述べている. 第 4 章では, 日本と中国におけるリハビリ医療の相違 (教育制度の整備状況や業務内容等) について, 日本と中国の文献や資料をもとに述べている. 第 5 章では, 日本における中国へのリハビリ分野の継続的な支援を行う必要性について議論している. 第 6 章では, 青年海外協力隊による済南市の病院へのリハビリ分野の支援が, 家族介護者の介護負担に与える影響について述べている. 第 7 章では, 青年海外協力隊によるリハビリ分野の支援終了後の済南市における家族介護者の介護負担に関する実態を明らかにした. 最後に第 8 章では, 第 1 章から第 7 章における内容から得られた知見をもとに, 済南市の病院における家族介護者の介護負担の軽減に向けた, 日本が今後行うべきリハビリ分野の支援の方向性について提言した.

本研究により得られた知見から, JICA ボランティア事業の青年海外協力隊による済南市のリハビリ専門家による介護指導の支援が, 入院患者の家族介護者の介護負担を軽減させる効果があった可能性を示唆した. また, 済南市の家族介護者の中で, 「直接会う」という人とのつながりを持っている人は, 介護負担が少なかった. インターネットによる人とのつながりは, 有意な介護負担軽減の効果を示していない可能性を示唆した.

審査結果の要旨

本研究では、独立行政法人国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency, 以下, JICA) による、中国のリハビリテーション分野の支援の有効性を検証している。加えて、JICA によるリハビリ分野の支援終了後における中国の家族介護者の介護負担現状を、Health Related Quality of Life (HRQOL) や社会とのつながり等をパラメーターとして使用し、地域リハビリテーションの概念を用いた支援の継続を提言している。前半の中国の病院における聞き取り調査の他、後半の研究方法として、中国山東省済南市 (以下、済南市) における家族介護者を被験者としており、病院に勤務する医師にも腰痛の有無について、国際疾病分類による診断にも参加していただき、研究の協力を得ている。分析方法として、適切な統計解析等も行っている。

本研究の目的の1つは、JICA ボランティア事業の青年海外協力隊による中国山東省済南市 (以下、済南市) のリハビリ専門家による介護指導の支援が、入院患者における家族介護者の介護負担に与える影響を明らかにすることである。2つ目の目的は、済南市におけるリハビリの専門家による支援が終了した後の、家族介護者の介護負担の現状を明らかにすることである。

本論文は、第1章から第8章で構成されている。各章の概要は以下の通りである。

第1章は緒言であり、本研究の目的、先行研究によって根拠付けられた研究背景、研究の動機等を整理し、研究の進め方を示している。第2章では、これまでの中国に対してリハビリ分野の支援を行ってきた、JICA を含めた組織とその取り組み内容について、文献と資料にもとづいて、整理している。また、中国へのリハビリ分野の支援の内容や期間について、先行研究、および、資料をもとに述べている。第3章では、中国へのリハビリ分野の支援が終了した後の現状について、中国政府による医療体制の計画、体制整備、家族介護者への介護動作指導の必要性について、中国語の資料や文献を含めてサーベイしており、それらの結果にもとづいて記述されている。第4章では、日本と中国におけるリハビリ医療の相違 (教育制度の整備状況や業務内容等) について、日本と中国の文献や資料をもとに述べている。第5章では、日本における中国へのリハビリ分野の継続的な支援を行う必要性について議論している。第6章では、青年海外協力隊による済南市の病院へのリハビリ分野の支援が、家族介護者の介護負担に与える影響について実地の聞き取り調査の結果をもとに分析している。実値の聞き取りでは、JICA の青年海外協力隊でトレーニングした著者の中国語を駆使した他、現地の医療スタッフにも協力していただき、内容を明確にしている。第7章では、青年海外協力隊によるリハビリ分野の支援終了後の済南市における家族介護者の介護負担に関する実態をアンケート調査、医師の診断などを用いて明らかにしている。統計解析も適切に使用している。第8章では、1章から7章の内容から得られた知見をもとに、済南市の病院における家族介護者の介護負担の軽減に向けた、日本が今後行うべきリハビリ分野の支援の方向性について提言している。地域リハビリテーションを用いて、今後も中国へのリハビリ分野の支援を行う必要性も、根拠と共に示されている。

なお、論文を構成する主要な部分は、東北の社会福祉研究 13 号 (査読付き論文) および Journal of Asian Rehabilitation Science (査読付き論文) に基づいている。

本研究では、リハビリ分野の国際的な支援の有効性と今後の継続性と方向性を、実際に中国の被験者をから得た知見に基づいて、実証的に明らかにしたものであり、査読付き論文の掲載という外形基準も満たしていることから、博士論文として十分な新規性・妥当性を有している。